

(4) 実態調査と意識調査の結果より

ア 実態調査の概要

対 象：中学2年生（35名）

実施時期：平成28年11月1日

鑑賞作品：フェルメール「牛乳を注ぐ女」

質問内容：①この作品の中でどんな出来事が起きていますか
②どこからそう思いましたか

イ 実態調査における生徒の回答類型及び結果の分析

	生徒の回答類型	生徒の記述の具体例	結果
a	動作に注目している。	〇〇〇を注いでいる (ミルク、はちみつ、水など)	37% (13人)
b	人物の性別、年齢や容姿に注目している。	女性、若い女の人、おばさん、	14% (5人)
c	作品の画面と日常生活を結び付けている。	お母さん、(お手伝いさん)が料理をしている。朝食の準備に取りかかっている。	34% (12人)
d	作品の画面と自分の想像した世界を結び付けている。	毒を入れようとしている。	6% (2人)
e	作品の画面の壁の傷や窓枠など、細かい部分を見て想像している。	戦争、牢屋	9% (3人)

〔結果の分析〕

作品中に描かれている人物の動作にだけ注目して記入した回答が37%（13人）、作品中の人物の性別、年齢や容姿に注目して記入した回答が14%（5人）、作品を見て自分の生活体験（日常生活）と結びついた場面を想像して記入した回答が34%（12人）でした。作品の画面と自分の想像した世界と結び付けて記入した回答が6%（2人）でした。作品の細かな部分を見て、感じとりどのような場面なのかを想像して記入した回答が9%（3人）でした。以上の結果より、次のようなことが考えられます。

鑑賞作品は、大きな瓶をもった姿が印象的な美術作品でした。それゆえに、その印象的な動作にのみに注目した生徒が37%（13人）と最も多かったと考えられます。よって「女の人が牛乳を注ぐ場面」「母親が料理をしている場面」や、「母が子供のために朝食をつくっている場面」など、「誰が何をしている」という動作のみに注目した生徒がいました。

また、朝、夕食など時間の経過をもって作品を見ている生徒が34%（12人）います。「作品の中で、どんな出来事が起きているのでしょうか」という発問で、生徒自身が自らの生活経験と結び付けて作品を鑑賞していると考えられます。作品の細かな部分をしっかりと見ながら、考えていることが分かる生徒は、9%（3人）でした。作品中の人物の表情や細かな動きに注意して鑑賞することを苦手としていることが分かります。

ウ 意識調査の概要

対 象：中学2年生（35名）

実施時期：平成28年11月1日

質問内容：① 鑑賞の時間は好きですか。
② ①で答えた、理由は何ですか。

〔意識調査の結果分析〕

a	大好き	9%（3人）
b	好き	29%（10人）
c	あまり好きではない	31%（11人）
d	苦手	20%（7人）
e	無回答	11%（4人）

〔結果の分析〕

クラスの38%（13人）の生徒が鑑賞の時間について肯定的に捉えていることが分かります。あまり好きではないと答えた生徒は31%（11人）、苦手と答えた生徒は20%（7人）、クラスの半数以上の生徒が鑑賞の時間について良い印象をもっていないと思われま

す。「あまり好きでない」と回答した生徒は、その理由として、「どのように見ているのか分からない」「何を見ているのか分からない」と記述しています。このことから、自信をもって作品を見ることができていないと考えられます。よって、見たものを自分の日常生活と関連付けて表現してよいことが分かれば、自信をもって作品を見ることができるようになるのではないかと考えま

す。以上のことから、日常生活と関係付けて作品を見ることができるようになれば、「どのように見ればよいのか」が分かり、自信をもって見ることができるようになると考えま

エ 実践化へ向けて実態調査と意識調査の結果から

美術作品を鑑賞する場合には、クラスの34%（12人）の生徒が見ているように、生徒の日常経験や生活経験に照らし合わせて見ることをクラスの中で広めることができれば、「あまり好きでない」と回答した生徒の「どのように見ているのか分からない」という実態の改善を図ることができると考えま